



小川町議会だよりは

写真にコダワル!

写真は編集委員が

撮る「選ぶ」。キャプション(写真説明)も工夫します。

Q 森林環境譲与税を使った森林管理計画の進捗と今後の人材育成について。

A 環境農林課長 15年間の目安に1260ヘクタールを意向調査しますが、3年間で490ヘクタール終了しています。その中では、7割を超える森林所有者から「山の管理を委託したい」との意向がありました。これと同時に森林組合と森林資源カルテを作成し、管理に向けた準備を進めています。また人材育成は、今後の計画において重要ですので、計画的に進めていきます。特に、全国でも育成が進む小規模自伐型林業については、本年度から小規模林業体支援補助金を開始しました。

Q 関係人口増を目指し、不耕作地利用や町有地並びに協力いただいた



しまざきたかお
島崎隆夫 議員
が町に問う!

植樹で関係人口の増加を

答弁 管理などについて課題があるので研究します

ける土地への指定花木の植樹を推進しては、これにはクラウドファンディングやふるさと納税返礼、森林環境譲与税などで財源の確保は。

A 政策推進課長 財源についてはどれも可能性があります。ただし、土地や実施後の管理については課題がありますので、今後研究していきます。



不耕作地にならないように花木を植樹

一部事務組合議会から報告

一部の行政サービスを複数の市町村が共同で行うための団体が一部事務組合です。構成市町村の議会から議員を選出しています。

消防・救急・斎場の管理運営・介護・障害審査会・公平委員会

比企広域市町村圏組合議会
(令和5年2月10日)

消防指令業務の共同運用

令和5年度一般会計及び各特別会計の総額は39億8,500万円(小川町の負担額は4億9,800万円)。令和6年度からの消防指令業務の共同運用※に向けてシステムの整備等が図られます。複数の消防本部が協力し、指令業務を行うことで「災害時の相互応援」や「業務の効率化」及び「更新・維持管理の費用削減」が期待できます。

※埼玉西部消防局、坂戸・鶴ヶ島消防組合、西入間広域消防組合

ごみ処理・し尿処理

小川地区衛生組合議会
(令和5年2月20日)

可燃ごみ処理に関する基礎調査

令和5年度一般会計の当初予算は15億8,600万円(小川町の負担額は約4億5,700万円)。令和4年度から10年契約で始まった可燃ごみ処理の民間委託ですが、現況把握と課題などを整理し、委託期間終了後の「処理方法」や「処理場(中爪地内)の解体及び跡地利用」について、「基本方針」を定めるための調査に早速、着手します。



いなわらしじょうじ
稲村穰治 議員
が町に問う!

住みたい田舎の確保を

答弁 地域おこし協力隊制度を活用します

道の駅。虜になるような仕掛けや、「映え」要素をつくり出すことが必須と考えるが。

A にぎわい創出課長 再整備後の道の駅は、観光の拠点となるものです。水辺deベンチャーチャレンジ事業との連携も含め、思わずSNSで発信したくなるような要素も意識して、再整備を進めていきます。

Q 住みたい田舎ランキング(田舎暮らしの本2月号)で首都圏第3位。注目を浴びている当町だが、全国の小川町ファンの需要に応えるべく、今一度尽力すべき時である。住みたいという需要に対し、物件の数が足りていないという声を聞くが。

A 政策推進課長 移住サポートセンターは、現在相談対応等が増えているが、物件の洗い出しに時間がかかれない状況です。その対策として、地域おこし協力隊制度を活用し、対応を図ります。物件の確保は、すぐには解決できませんが、今後も移住サポートセンターと連携しながら考えていきます。

Q リニューアルを予定している



住みたい田舎として注目を浴びる当町



ほんだしげのぶ
本多重信 議員
が町に問う!

道の駅整備

答弁 旧上野台中の一部を確保します

工事中の直売所の対応は

始まり、非常に古いと評価されている。町経済と町民生活を支えた産業遺産として顕彰すべきと考えるが。

A 生涯学習課長 炭鉱は戦後まで稼動した跡地であることは認識していますが、落盤事故の発生や、その後の住宅地等の開発により、当時の建造物等の遺構が現存していないため保存は考えていません。

Q 直売所の仮店舗が注目されているが。

A にぎわい創出課長 旧上野台中学校の校舎の一部を活用し、可能な限り販売面積は確保します。

新型コロナ対策

Q オミクロン株×BB1・5の流行で高齢者の死亡リスクが高まる中、国は5類への引き下げを明らかにした。自己負担で受診抑制が懸念されるが。

A 健康福祉課長 急激な負担増とならないように、期限を区切り一定の公費支援を継続します。ワクチンは法に基づき実施し、必要な接種は自己負担なく実施します。

歴史や文化を大切に

Q 飯田の炭鉱は明治7年採炭が



自然・歴史・文化を守る小川町に

よく食べて、よく寝ます。
(M・Mさん 30代)



引き続きオンラインを活用します!
(M・Kさん 30代)

